

コラム

スポーツタイプの次世代自動車

戦略・産業ユニット 電力グループ 主任研究員 横越 久樹

次世代自動車にはいくつか種類がある。最近 CM 等でもよく登場し、一番なじみがあるのは、ハイブリッド車である。これは状況に応じエンジンとモーターを組み合わせるものである。そして、バッテリーに蓄えられた電気によりモーターを回転させ走行する電気自動車、ハイブリッド車をさらに進化させ、家庭用の電源から電気をとり充電可能とするプラグインハイブリッド車、燃料電池の発電によりモーターを回転させて走行する燃料電池自動車、天然ガスを燃料とする天然ガス自動車などがある。これらの次世代自動車は、CO₂ 排出を抑え環境にやさしいエコカーとして今注目を浴びている。そういった中で、最近、ハイブリッド車や電気自動車の開発や実証に関するニュースが増えている。今、個人的に気になっているのは、スポーツタイプのハイブリッド車、電気自動車である。

今年に入り 2 つ驚かされたことがある。1 つはスポーツタイプのハイブリッド車の発売が開始されたこと、もう一つはスポーツタイプの電気自動車が国内販売開始されたことである。

1 点目は今年の 2 月に世界初のスポーツタイプのハイブリッドカーがホンダから発売されたと言う話であり、実際に試乗したわけではないが、それほど違和感無く運転を楽しめるようである。私も、初めて車を購入する際はセダンでは大きすぎるし軽自動車では小さすぎると考え、最初購入した車はスポーツタイプであった。ハイブリッド車でこのようなスポーツタイプができることにより、購入時の選択肢がさらに増えることは購入する側にとっても喜ばしいことである。今後もさらに魅力的なハイブリッド車が開発され販売されていくことに期待したい。

2 点目は米国のカリフォルニア州に本社を持つ電気自動車会社のテスラ社のスポーツタイプの電気自動車が今年の 4 月に日本で販売されたことである。走行距離は 1 回の充電で約 380km の走行が可能で、ポルシェと同程度の加速性を備え、外観もまさにスポーツカーという感じである。このニュースを見た瞬間にすばらしい性能であると感じ、電気自動車もここまで来たかと強い印象を受けた。価格は約 1,800 万円と高額であり、おいそれと購入できるものではなく、性能が良くてもここまで高いと購入は難しいが、電気自動車の可能性は十分に伝わってきた。加速性もそうだが、1 回の充電あたりの走行距離がここまで伸びるとするのは正直驚かされた。これは、これまでの電気自動車の走行距離と比較してもかなりの走行距離であると思う。確かにコストをかければ可能であるということなのかもしれないが、電気自動車が普及していくためにはこの走行距離を保ちつつコストを抑える必要もあると思う。技術開発がさらに進み、より高性能・低価格で安全性のある電気

自動車が開発されることに期待したい。

もちろんこれら以外にもプラグインハイブリッド車、燃料電池自動車、天然ガス自動車などの開発も進んでおり、今後は様々な次世代自動車が発売されていくと考えられる。今後の次世代自動車の開発が楽しみである。

お問い合わせ：report@tky.ieej.or.jp